

# ちいきのなかま通信

発行日：2020年6月30日

発行者：特定非営利活動法人 ちいきのなかま

## No.81

ちいきなかまは組織評価の第一歩、ベーシック評価にチャレンジしています。私たちが評価を受けようと思いついた理由…イラストにしてみました！



### ベーシック評価の先にあるのは社会的に信頼できる個人と組織であること

ガバナンスとコンプライアンスを遵守したその先にあるもの…。NPO法人では例えば、理事会や総会の合議で運営するプロセスはそれなりに大変で、言えば人間関係ですから、ちいきのなかまも設立からの数年間、仕事よりも組織運営で混乱して大変でした。法人運営が落ち着き始めた頃に、ようやく私たちは未来の仕事を見出し始めました。それが今取り組んでいる「産前産後の家事サポート」や「きょうだい支援」などです。私たちが暮らしや仕事の中で感じた「人の生きづらさ」について見つけ、学習し、多くの先達とのご縁で見出した未来。

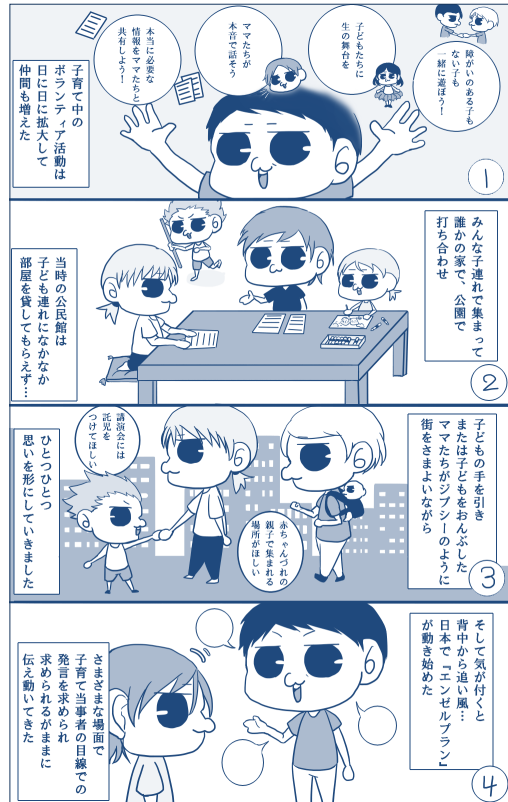
私たちは当事者、生活者として日常的に子どもたちや家族と向き合い、気づきを持ち、言葉にして自由意思で語り合う。合議し、透明性のある意思決定を行い、新たな支援のソフトに活かされる。ガバナンスとコンプライアンスは個々人の自覚に基づくもので組織の標準装備です。この地点をスタートに新たな価値を作り出せるNPOでありたいと思う次第。強いリーダーが牽引する組織ではなく、関わる個人が力を発揮できること柔軟であること、仲間との仕事を楽しくしてくれること、何より社会貢献できることをこれからも目指します。

いらすとでみるちいきのなかま「〇〇のこ～んなかんじ」

ちいきのなかまの周りで起こる出来事をイラストで紹介☆

# ボランティアからのNPOってこ～んなかんじ

by 蓮すけ



出産して初めて、子育ての大変さ、そして環境の不備を思い知る。この問題は私だけじゃなくみんなの問題！！と確信して子ども連れで地域活動、たすけあいのためにつながった。それが事の始まり。行政主催の委員会でも意見を求められた。いろいろ提案できたのは当事者だったから。そのひとつ、当時検討していた佐世保市子ども発達センター設立を前に、吉祥寺の「子育て広場0123」のような場と子育て当事者をスタッフとして雇用することを提案し予算化が叶った。私は子育て支援の実践をしたいと考えてすっかりスタッフに就職。当時は「子育て支援はボランティアで」が普通の発想で、有給スタッフの雇用は実は画期的な出来事でした。発達センター設立報道が華々しくて広場のことは小さな成果でしたが、うれしかった。広場での多様なご家族や厳しい環境の子どもたちとの出会いは私のその後の仕事に大きく影響しました。私は広場スタッフを2年で卒業、ファミサポ事業がスタートして働き始めました。子育て支援の仕事の重要性に確信はありつつ、即成果は出ず、逆に「母親に楽をさせ子育てを怠けさせる仕組み」と批判されての展開でした。ファミサポでは「共感と当事者性」が多くの女性（おもに母親）の支援活動への参加の動機となり、多くの方が活動に参加され、支援現場で力を発揮し、佐世保のファミサポ支援の土台を作っていました。

ファミサポだけでなく、当時の子育ての仲間たちは、仕事に復帰したり、地域で「子どもの虐待防止」活動や「おやこ広場」設立など活躍しました。全国でも1990年代以後に子育て支援事業を展開したのは1980年代に親となり、子育ての壁にぶつかって社会を変えようと動き始め、時代の風を背に受けた多くの母親たちでした。 守永

## コロナ禍、第2波に向けて

### 「変化への対応」に苦しむ人がいる～発達障がいの人からのSOS

緊急事態宣言を前後して、AさんからSOS連絡。Aさんは発達障がいです。ザクツという  
とAさんはコロナ感染による社会の変化に不穏になり家族へのハつ当たりを自己制御でき  
ない。Aさんの嘆きは改善しないままエスカレートし「安定剤」の服薬を検討すること  
に。でも、今回は数回きつい時に電話等で話しているうちに状況が好転して一旦解決し  
ました。楽しいイベントやライブが中止になり、さらにいつ再開するのかの見通しの  
つかない我慢の日々。ストレスで言葉や行動が自己コントロールできない事態に本人は  
苦しみ、支える家族もつらい。災害時の避難所であれば医療・福祉関連スタッフの巡回  
体制を整えて状況の把握が出来るのかもしれないけれど、各家庭内への介入は困難だ  
と思う。今回は人と人の接触にも制限があり一層大変だったはず。今回のAさん、偶然私  
たちのご縁があった。会話できる誰かがいる、ということだけでも力になれることもあ  
る。Aさんとは子どもの頃からのご縁。このような事態を経験してますます、発達障がい  
の人たちに限らず、地域でのつながりを子どもの時から作ることはとても大事だとしみ  
じみ思っています。

### エッセンシャルワーカーの人たちが働ける環境を維持するための子どもの預かり…

#### ファミサポはセイフティネットではないけれど…

コロナ感染拡大のニュースの後、数人のファミサポ会員さんから活動自粛の申し出が  
ありました。支え手がいなくて需要と供給のバランスが大きく崩れたらどうしようと不  
安になりました。でも利用の方も自粛になり、ファミサポは静かに時間が過ぎました。

学校休校や医療崩壊の危機が迫ったある日、ファミサポなら個別対応でクラスター発  
生しづらいのではないかと、エッセンシャルワーカーの方々の子育ての応援ができないだ  
ろうか、という話が持ち上がりました、実際市内の介護保険事業所からも相談が入りま  
した。その時の当方のお答え「近所の助け合いの延長で子どもの預りをする人たちにそ  
んなに重たい責任を負わせることはできないと思います」仮に厚労省がエッセンシャル  
ワーカーの支援に利用補助をするとしても、ファミサポの場合は1時間当たり最低賃金以  
下での対応なのに、その人の暮らしや健康を脅かすかも知れない。保障としてあるのは  
ファミサポ保険だけ、またお世話する私たち職員も大きなリスクを抱える、とてもじゃ  
ないけど対応したくない、がその時の判断でした。結果利用はありませんでした。幸い  
佐世保市では感染拡大せず、医療・介護崩壊の危機も第1波では起きなかった。

ただ、その後数日考え、感染拡大した他地域の報道にも触れ「この状況は特別な状  
況、緊急事態であること」を私たち市民も受け止めて考えなくてはと思い至りました。2  
月以後に体験したことは誰にとっても初めてのことばかりでしたが、2波の時には以前よ  
りも情報を得ることは可能になるはず。私たちにも何か出来ることがあるのかもしれま  
せん。直接的な支援だけでなく地域の中で何らかの役割を担うことができればと思いま  
す。例えば、里帰り出産できない方々のお手伝いなど可能なことです。みなさんから  
いただいたご寄付も有効に役立ててもいいように思います。私たちからの働きかけも考え  
ますが、みなさんからのご提案も歓迎します。このような時だからこそ、ちいきのなか  
ま関連の皆さんとのつながりを強めていけないだろうかと思っています。

## ●これからのイベントや講座の予定●

イベント名	日時	会場	内容
ファミサポ 提供会員交流会	7月3・7・10・14 10:30～12:00	事務所または ボラセン別館	最近のファミサポ動向の 説明など
ぼちぼちヨガ教室	7月6・20日 (月) 14:00～15:00	ボランティア センター別館	定期開催 参加費¥500 会員外¥800
おもちゃ図書館	7月28日(火) 10:00頃から	ファミサポ事務所	参加費無料

## ●オンラインでぼちぼちヨガ●

産前産後におすすめ、ぼちぼちヨガをYouTubeにアップしています。ちいきのなかまのHPから観ることができます。梅雨時期から猛暑、もしかしたらコロナ第2波のときの運動不足の解消に、ぜひお試しください。ヨガの効果については言うまでもありません。画面を見ながら体を動かすもよし、ちいきのなかままでの教室も2回/月開催しています。もう少し深く学びたい方は教室にご参加ください。上記スケジュールの日程です。呼吸法、マインドフルネスについてのお尋ねも気軽にどうぞ。(インストラクター：三宅…ちいきのなかま事務局です)



### 編集後記

「子育てが大変！」つい言ってしまう言葉。この言葉を子どもたちが聞いたら大好きなお父さんお母さんが自分のために大変な思いをしているなんて、きっと悲しいだろうと思う。だから時々言い直す「子育ての環境が大変！」子どもたちには生まれてきてくれたことに感謝したい。息子の「子育てが大変だった？」の問いに母が「大変じゃない、必死だった」と答えるCMがある。良いなと思う。みんな小さな命を育てることに精一杯。少しでも負担が軽くなりますようにと思います。

### NPO法人ちいきのなかま

入会・会員(正・賛助)会員継続のご案内  
 正会員：総会議決権あり 入会金¥1,000 年会費¥6,000  
 賛助会員：総会議決権なし 年会費¥3,000  
 主な特典：各種事業会員特別料金にてご優待  
 連絡先 NPO法人ちいきのなかま



〒857 0022長崎県佐世保市山手町9-19  
 携帯 090-9498-3608  
 E-mail:chiikinonakama@basil.ocn.ne.jp  
 HP:http://chiikinonakama.boon.jp/